個 別 財 務 諸 表 等

(1)貸借対照表

			1		単位:百万円)
科目	2 0 0 3 年 (2003.3		2 0 0 2 年 (2002.3		前 期 比 増 減
	金額	構成比	金 額	構成比	金 額
(資産の部) 流動資産		%		%	
現金及び預金	9,217		10,285		1,068
受 取 手 形 売 掛 金	5 8 2 3 , 4 9 1		5 3 1 3 , 4 9 9		5 1 7
有 価 証 券	177		1 3 1		4 6
商品	5 4 1		7 4 7		206
制 原 材 料	5 9 4 2 0 3		6 5 1 2 3 8		5 7 3 5
仕 掛 品	6 1 4		5 5 3		6 1
貯 蔵 品	4 4 6		4 4 4 2 7 9		1
繰 延 税 金 未 収 入 金	6 0 9 1 , 9 7 9		1,617		3 2 9 3 6 1
そ の 他	2 3 5		3 4 7		1 1 1
貸倒引当金	1 4		1 3		0
流動資産合計	18,678	40.5	19,314	40.6	6 3 5
固定資産					
1 . 有 形 固 定 資 産 建 物	4,706		5,050		3 4 4
機・械・及・び・装・置	262		3 1 1		4 9
工具器具備品 地	670 4,136		6 8 5 4 , 1 3 6		1 4
建設仮勘定	3		1		1
そ の 他	184		2 1 5		3 0
有形固定資産合計	9,963	21.6	10,400	21.8	4 3 7
2 . 無 形 固 定 資 産 営 業 権	3 5		5 2		1 7
	3 0 6		299		1 7 6
そ の 他	4 2		4 3		0
無形固定資産合計	3 8 4	0.9	3 9 5	0.8	1 1
3.投資その他の資産	7.6.0		0.3.3		F 3
投資有価証券 関係会社株式	769 10,914		8 2 3 1 1 , 6 2 1		5 3 7 0 7
関係会社出資金	1,409		1,471		6 2
関係会社長期貸付金 差 入 保 証 金	1,505 625		1,217 583		2 8 7 4 2
差 入 保 証 金 繰 延 税 金 資 産	1,188		702		485
再評価に係る繰延税金資産	8 5 4		8 8 4		2 9
その他 投資評価引当金	199		2 9 8 7 9		9 9 7 9
貸 倒 引 当 金	4 1 6		5		4 1 1
投資その他の資産合計	17,050	37.0	17,518	36.8	4 6 8
固定資産合計	27,397	59.5	28,315	59.4	9 1 7
資 産 合 計	46,076	100.0	47,629	100.0	1,552

					(早位:日万门)
科目	2 0 0 3 年 (2003.3.		2 0 0 2 年 (2002.3		前 期 比 増 減
	金額	構成比	金 額	構成比	金額
(負債の部)		%		%	
流 動 負 債 買 掛 金	1,602		1,826		2 2 4
短期借入金	1,500		2,500		9 9 9
未 払 金	1,294		8 1 3		4 8 1
未払法人税等	178		1 2		1 6 6
預り 金	2 5		7 4		4 9
賞 与 引 当 金 そ の 他	5 0 3		6 1 1		1 0 8
その 他 流動負債合計	1 0 0	11.3	4 5 5 , 8 8 3	12.4	5 4 6 7 9
//	3,203	11.0	3,003	12.7	0 7 3
退職給付引当金	3 1		-		3 1
役員退職慰労引当金	157		1 3 8		1 9
その他 固定負債合計	16	0.4	2 2	0.3	6
	2 0 5	0.4	161		4 4
負 債 合 計 (資 本 の 部)	5,409	11.7	6,044	12.7	6 3 5
	_	_	9,274	19.5	9,274
資本準備金	-	-	10,800	22.7	10,800
利 益 準 備 金	-	-	8 4 7	1.8	8 4 7
再 評 価 差 額 金	-	-	1,265	2.7	1,265
その他の剰余金 1.任意積立金					
	_	_	5 2		5 2
固定資産圧縮積立金	-	-	4 8		4 8
別途積立金	-	-	21,244		21,244
2. 当期未処分利益	-	-	5 6 7		5 6 7
その他の剰余金合計	-	-	21,912	46.0	21,912
その他有価証券評価差額金 自 己 株 式	-	-	1 6	0.0	1 6
	_	_	41,585	87.3	41,585
資 本 金	9,274	20.1	-	-	9,274
資 本 剰 余 金			-	-	
資本準備金	10,800		-	-	10,800
資本剰余金合計	10,800	23.5	-	-	10,800
利益 剰余 金 利益 準備 金	8 4 7		-	_	8 4 7
日 任 意 積 立 金	21,336		-	-	21,336
当期未処理損失	5 4		-	-	5 4
利 益 剰 余 金 合 計	22,129	48.0	-	-	22,129
土地再評価差額金	1,295	2.8	-	-	1,295
その他有価証券評価差額金	9 2 5 1	0.0	-	-	9
│ 自 己 株 式 │ 資 本 合 計	251	0.5 88.3	-	-	251
章	46,076	100.0	47,629	100.0	1,552
		.00.0	, 5 2 3		.,552

(2)損益計算書

	I				(単位:白力円)
科目			2 0 0 2 年 3 (2001.4.1~2002		前期比增減
	金 額	百分比	金額	百分比	金 額
売 上 高 売 上 原 価	28,016 21,196	% 100.0 75.7	2 8 , 0 0 5 2 1 , 3 0 5	% 100.0 76.1	1 0 1 0 9
 売 上 総 利 益	6,820	24.3	6,700	23.9	1 1 9
販売費及び一般管理費	6,825	24.3	7,323	26.1	4 9 8
 営業損失	5	0.0	6 2 2	2.2	6 1 7
 営業外収益	8 0 1	2.9	1,115	3.9	3 1 3
受 取 利 息	1 5 5		1 5 5		0
受取配当金	5 6 2		7 8 5		2 2 2
為	3 7		1 3 6		98
その他	4 6	0.4	3 8	0.0	7
営業外費用 支払利息	2 3	0.1	1 1	0.0	1 1
支払利息その他	1 0		4		6 5
 経常利益	7 7 3	2.8	480	1.7	292
特別利益	1,971	7.0	5 0 3	1.8	1,468
貸倒引当金戻入益	0		1 0		1 0
投資評価引当金戻入益	7 9		-		7 9
固定資産売却益	2		-		2
関係会社特別配当金 営業権譲渡益	1,888		- 1 9 2		1,888 192
営業権譲渡益 私財 受贈 益	_		3 0 0		3 0 0
特別損失	3,026	10.8		2.4	2,353
貸倒引当金繰入額	4 1 3		_		4 1 3
固定資産除売却損	1 7		5 5		3 7
投資有価証券評価損	2 1 7		3 6 1		1 4 4
関係会社整理損	1,090		-		1,090
関係会社株式評価損	5 4 3		1 6 0		3 8 2
関係会社出資金評価損	6 2		-		6 2
特別 退 職 金 役 員 退 職 功 労 金	6 8 1		9 4		6 8 1 9 4
税 引 前 当 期 純 利 益 又 は 税 引 前 当 期 純 損 失 ()	2 8 1	1.0	3 1 1	1.1	5 9 3
祝 可 前 ヨ 新 紀 預 犬 () 法人税 、住民税及び事業税	1 2 7	0.5	4 7	0.1	8 0
過年度法人税等	5 6 0	2.0	-	_	5 6 0
法人税等調整額	8 1 0	2.9	206	0.7	603
当期 純利 益 又は当期純損失()	1 5 8	0.6	4 7 1	1.7	6 2 9
前期繰越利益	3 2 0		3 5 1		3 1
中間配当額	2 1 6		2 5 5		3 9
当 期 未 処 分 利 益 又 は 当 期 未 処 理 損 失()	5 4		5 6 7		6 2 2

(3) 利益処分案

(単位:百万円)

		(+4,4,11)
科目	2 0 0 3 年 3 月期	2 0 0 2 年 3 月期
	(2002.4.1 ~ 2003.3.31)	(2001.4.1~2002.3.31)
当 期 未 処 分 利 益 又は当期未処理損失()	5 4	5 6 7
任 意 積 立 金 取 崩 額		
別 途 積 立 金 取 崩 額	3 0 0	-
特別償却準備金取崩額	8	8
計	2 5 3	5 7 5
これを次のとおり処分いたします。		
利 益 配 当 金	2 1 5	2 5 5
任 意 積 立 金		
特別償却準備金	0	-
固定資産圧縮積立金	1	-
次期繰越利益	3 6	3 2 0

1株当たり配当金の内訳

77 77 77 77												
	2	0	0 3	年 3	月;	期	2	0	0 2	年 3	月算	胡
	年	間	中	間	期	末	年	間	中	間	期	末
	円	銭	F	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
普 通 株 式 (内 訳)	1 7	0 0	8	5 0	8	5 0	2 0	0 0	1 0	0 0	1 0	0 0
普通配当	1 7	0 0	8	5 0	8	5 0	2 0	0 0	1 0	0 0	1 0	0 0

重要な会計方針

1 . 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式

その他有価証券

時価のあるもの・・・・ 期末日の市場価格等に基づく時価法

(評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は

移動平均法により算定)

・・・ 移動平均法による原価法

時価のないもの ・・・ 移動平均法による原価法

2.たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品,製品,原材料及び仕掛品・・・・ 総平均法による低価法

貯蔵品 ・・・ 最終仕入原価法

3. デリバティブの評価基準・・・・ 時価法

4. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産・・・・ 定率法

ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物

付属設備を除く)については定額法なお、主な耐用年数は以下のとおり

 建物
 31~50 年

 工具器具備品
 2~6年

(2)無形固定資産・・・・ 定額法

ただし、市場販売目的のソフトウェアについては販売 可能有効期間における見込販売数量に基づく方法、自 社利用のソフトウェアについては社内における利用可

能期間 (5年) に基づく定額法

(3)長期前払費用・・・・ 定額法(主として5年で償却)

5. 引当金の計上基準

(2)賞与引当金

(1)貸倒引当金・・・・ 債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸

倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回

従業員の賞与の支払いに備えるため、支給見込額に基づき計上

収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しています。

しています。

(3)退職給付引当金・・・・ 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職

給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末におい

て発生していると認められる額を計上しています。

なお、会計基準変更時差異(324百万円)については、5年に

よる按分額を費用処理しています。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時の従業員の平均残 存勤務期間以内の一定の年数 (10年)による定率法により、発

生年度の翌事業年度から費用処理しています。

(4)役員退職慰労引当金・・・・ 役員の退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく期末要

支給額を計上しています。

6. リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっています。

7.消費税等の処理方法

税抜方式で処理しています。

8. その他財務諸表作成のための重要な事項

(自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準)

当事業年度から「自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(企業会計基準第1号)を 適用しています。これによる当事業年度の損益に与える影響は軽微です。

なお、財務諸表等規則の改正により、当事業年度における貸借対照表の資本の部については、改正 後の財務諸表等規則により作成しています。

(1株当たり当期純利益に関する会計基準)

当事業年度から「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号)を適用しています。

なお、前事業年度に係る財務諸表において適用していた方法により算定した場合においても、当事業年度の1株当たり情報については、同額です。

注記事項

(貸借対照表関係)

(-	引借 灯 照 表 舆	IN)								
	(2 0 (3 年 3	月期)		(2 0 (2 年	3 月期)		
1 .	1 . 有形固定資産の減価償却累計額 10,652百万円					1.有形固定資産の減価償却累計額 10,322百万円				
2 .	担保提供資産及び対	村応債務		2	. 担保提	供資産及び対	村応債務			
	担保に供している 資産	工場財団	そ の 他		担保に 資	:供している 産	工場財団	その他		
	建物	百万円 7 0 1	百万円 2 8 5		建	物	百万P 7 5 4	百万円 3 1 0		
	構 築 物	4	-		構	築物	4	-		
	機械及び装置	2 7	-		機械	及び装置	3 5	-		
	土 地	9 5 2	7 8 5		±	地	9 5 2	7 8 5		
	計	1,685	1,071			計	1,746	1,095		
	対応する債務	工場財団	工場財団その他			する債務	工場財	工場財団その他		
	輸出手形割引高短期借入金	百万円 158 1,500		輸出手形割引高短期 借入金			百万円 1 2 7 0 0 0			
	計	1,6	5 8			計	2,	1 2 7		
3 .	授権株式 発行済株式総		000,000株 572,404株	3				0,000,000株 5,572,404株		
4	関係会社に対する		,	4			 3資産及び負債	<u> </u>		
	流動質		5 0 1百万円 2 , 4 5 0百万円 1 , 2 0 7百万円 7 2 0百万円		流流流	動受売未動買 似負掛 人債	形 金	4 4 8 百万円 2 , 2 7 5 百万円 6 2 4 百万円 8 6 5 百万円		
5 .	保 証 債 関係会社の金融機 借入金 従業員の金融機関 そ の	に対する保証等	4 4 5 百万円 (6 社) 7 6 百万円 2 7 百万円	5	関係	美員の金融機	務 機関からの 金に対する保証等 関からの借入債務 D 他	9 2 百万円		

(2 0 0 3 年 3 月 期)	(2 0 0 2 年 3 月 期)
6.土地再評価法の適用 「土地の再評価法の適用 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律」(平成13年3月31日公布の連第19号)に基づき、事業用主地の高級では、事業のでは、本地ででは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、	6.土地再評価法の適用 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律19号す。ご書、第19号は、13年の再係金」のでは、14年では、1
土地再評価法第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3 月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める 土地課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行い算出しています。	土地再評価法第3条第3項に定める再評価の方法 土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3 月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める 土地課税台帳に登録されている価格に合理的な調整を行い算出しています。
再評価を行った年月日 2002年3月31日 再評価を行った土地の当事業年度末における時価と再 評価後の帳簿価額との差額 379百万円	再評価を行った年月日2002年3月31日再評価前の帳簿価額6,286百万円再評価後の帳簿価額4,136百万円
	7 . 商法第290条第1項第6号に規定する純資産の増加額 1 6 百万円

(損益計算書関係)

(預益計算書関係)	
(2 0 0 3 年 3 月 期) (2002年3月期)
1.関係会社との取引高	1.関係会社との取引高
製 品 売 上 高 9,794百	
商 品 売 上 高 8,430百	
商 品 仕 入 高 9,036百	5万円 商品仕入高 8,924百万円
受 取 配 当 金 560百	
(営業外収益)	受 取 利 息 140百万円
受 取 利 息 145百	百万円 営業権譲渡益 192百万円
2. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額	2.販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額
運搬保管料 724百	
広 告 販 促 費 1,044百	
給 与 及 び 賞 与 1,736百	
賞与引当金繰入額 207百	
退職給付費用 237百	
福利厚生費 237百	
旅 費 交 通 費 129百	
通 信 費 91百	
減 価 償 却 費 423百	
賃 借 料 260百	
研究開発費 217頁	
支払手数料 616百	
	支 払 手 数 料 695百万円
	59% 販売費に属する費用のおおよその割合 68%
一般管理費に属する費用のおおよその割合 3	31% 一般管理費に属する費用のおおよその割合 32%
3.研究開発費の総額 2,456百	3.研究開発費の総額 2,559百万円
4.固定資産売却益の内訳	
工具器具備品等 2章	5万円
5.固定資産除売却損の内訳	4.固定資産除売却損の内訳
建 物 2 配	5万円 建 物 2.6百万円
機 械 及 び 装 置 3 ឨ	9万円 土 地 16百万円
工具器具備品等 118	5万円 機械及び装置 7百万円
	構 築 物 3百万円
	工 具 器 具 備 品 等 1百万円

(リース取引関係)

項目	(2003年3月期)	(2002年3月期)
リース物件の所有権が借主に移転す ると認められるもの以外のファイナ ンス・リース取引		
リース物件の取得価額相当額、 減価償却累計額相当額及び期末 残高相当額	取得価額 減価償却 期末残高 累計額 相当額 相当額 相当額	取得価額 減価償却 期未残高 累 計 額 相 当 額 相 当 額
	機械及 百万円 百万円 百万円	機械及 百万円 百万円 百万円
	び装置 134 117 16	び装置 134 94 39
	合 計 134 117 16	工具器 9 9 0 具備品 9 9 0
		その他 6 5 1
		合計 149 109 40
未経過リース料期末残高相当額 支払リース料減価償却費相当額 支払利息相当額減価償却費相当額の算定方法	1年内 18百万円 1年超 - 百万円 合 計 18百万円 26百万円 23百万円 1百万円 リース期間を耐用年数とし、残存 価額を零とする定額法によってい ます。	1年内25百万円1年超18百万円合計44百万円45百万円40百万円2百万円左
利息相当額の算定方法	リース料総額とリース物件の取得 価額相当額との差額を利息相当額 とし、各期への配分方法について は、利息法によっています。	同 左

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価があるもの

(単位:百万円)

種類類	2003年3月期(2002.4.1~200	3.3.31)
12 //	貸借対照表計上額	時 価	差額
子会社株式	2,778	6,047	3,269

種	類	2002年3月期(2001.4.1~2002.3.31))
1= /	^*	貸借対照表計上額	時	価	差	額
子会社	株式	2,778	5,	067	2,	289

(税効果会計関係)

1.繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(2003年3月期)	(2002年3月期)
繰延税金資産		
たな卸資産評価減	4百万円	2 6 百万円
減価償却否認額	9 6 百万円	9 9 百万円
関係会社整理損	9 6 百万円	- 百万円
関係会社株式評価差額	6 7 1 百万円	470百万円
関係会社出資金評価差額	2 4 百万円	- 百万円
有価証券評価差額	2 2 8 百万円	1 4 7 百万円
投資評価引当金否認額	- 百万円	3 2 百万円
貸倒引当金否認額	1 6 4 百万円	1 1 百万円
未払特別退職金否認額	2 7 2 百万円	- 百万円
未払費用否認額	2 5 百万円	- 百万円
賞与引当金否認額	168百万円	172百万円
退職給付引当金否認額	1 2 百万円	- 百万円
役員退職慰労引当金否認額	6 2 百万円	5 6 百万円
繰越外国税額空除	18百万円	8 4 百万円
その他	4 7 百万円	2 9 百万円
繰延税金資産合計	1,893百万円	1,131百万円
繰延税金負債		
未収事業税	- 百万円	15百万円
前払年金費用	- 百万円	4 6 百万円
固定資産圧縮積立金・特別償却準備金	5 6 百万円	6 4 百万円
その他有価証券評価差額金	6百万円	1 1 百万円
その他	3 2 百万円	1 1 百万円
繰延税金負債合計	9 5 百万円	1 4 9 百万円
繰延税金資産の純額	1,798百万円	982百万円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	(2003年3月期)	(2002年3月期)
法定実効税率	41.1%	41.1%
	(当期純損失につき)	
(調 整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.5%	2.8%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	204.3%	27.7%
法人住民税均等割	7.8%	7.3%
外国税額空除	22.6%	75.2%
過年度法人税等	199.0%	- %
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	14.7%	- %
その他	0.2%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	43.8%	51.3%

(注) 繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、当事業年度における一時差異等のうち、2004 年 3 月末までに解消が予定されるものは 41.1%、2004 年 4 月以降に解消が予定されるものは 39.8%です。これにより、繰延税金資産の金額が 40 百万円、再評価に係る繰延税金資産の金額が 29 百万円それぞれ減少し、当事業年度に費用計上された法人税等調整額の金額が 41 百万円増加しています。

7. 役 員 の 異 動(2003年6月20日予定)

- 1.代表者の異動 該当事項はありません。
- 2. その他役員の異動
 - (1)就任予定

常勤監査役 庄司 東生 (現 執行役員 総務部長 兼 品質保証部担当)

(2)退任予定

常勤監査役 甲佐 諭

社外監査役 上田 茂實

以 上